



# 福祉優秀校

..... 大分合同新聞賞

◇ 上 ◇

大分合同新聞社と大分合同福祉事業団が福祉教育に熱心な学校を顕彰する「福祉優秀校・大分合同新聞賞」の第36回受賞校が決まった。各校の活動を紹介する。

## 亀川小学校

別府市内竈  
志賀貴代美校長・354人



本年度の第4回手話教室。ゲームをしながら手話を学ぶ4年生＝6日午後、別府市の亀川小

太陽の家や立命館アジア太平洋大が近くに立地する、多様なあふれる地域の小学校。年齢や障害にかかわらず「共に生きる」社会意識を育むため、福祉的な活動に力を入れている。

障害者を理解する機会を増やすため、3、4年生は太陽ミュージアムやオムロン太陽を訪れ、当事者のスポーツや仕事、生活に触れる。7年前に始まったオムロン太陽との連携授業は

他学年にも広げた。同社が得意な電気や経済などの分野を障害のある社員から教わり、心のバリアフリーを向上させる。誰でも利用できるユニバーサルデザイン(UID)についても学ぶ。

小学校での手話教室(全4回)は恒例授業。「家でも指文字で会話することがある」(4年生)など、着実に浸透している。

今年の4年生は自らテーマを絞り、優しいまじづく

りについて探究した。UDや太陽の家創設者中村裕博士を調べ、身体、視覚障害者ら4人から暮らしや思いを聞いた。佐藤凜さん(10)は「障害のある人を私たちと違う人だと勝手に思っていた。意識が変わった、ベルギー杏奈さん(10)は「一方的にお世話する」という考えはだめ。助け合っている意識が大事」と話す。

他にも各種の活動を通じて住民とのつながりを深めている。地域の交通安全運動に合わせて自校であいさつ運動(月2回)を実施。クラブ活動では住民がITや華道などを教える。6年生は卒業前に校区内の全14公民館を清掃したり、メッセージで感謝を伝えたりしている。

(和田礼子)

### 地域交流、共生意識育む

志賀校長の話 地域交流を通じて共生社会の意識が高まってきた。分け隔てない視点で行動できる子どもを育てていきたい。

# オムロン太陽と連携授業

